

人の動きのデータ事例から

にぎわいを生む街づくりの
ポイントを振り返る

講義パートの振り返り

1 自分たちの街が
客観的に見てどう受け取られているのか
どう利用されているのかを捉える

データ分析から自分たちの街を“客観視”する

2 自分たちの街の中で
具体的に何が人の行動に影響している
のかを捉える

データ分析から行動背景・要因を探る

3 人の行動を把握することに加え
人を動かすという「攻め」の発想
も重要である

データ分析から人々の“行動のきっかけ”を把握する

4 人は「期待」で動き、
「状況」で判断する
それにフィットしたサービスを考える

人々の“気持ちの取り込み”も重要な要素

ディスカッションのポイント

1	データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性
2	データ解析ー自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる
3	五感と「行動変容」ー「気になるもの」を作り出す
4	「滞在する」街に必要なものー移動を補強する「拠点」

1 データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性

2 データ解析ー自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる

3 五感と「行動変容」ー「気になるもの」を作り出す

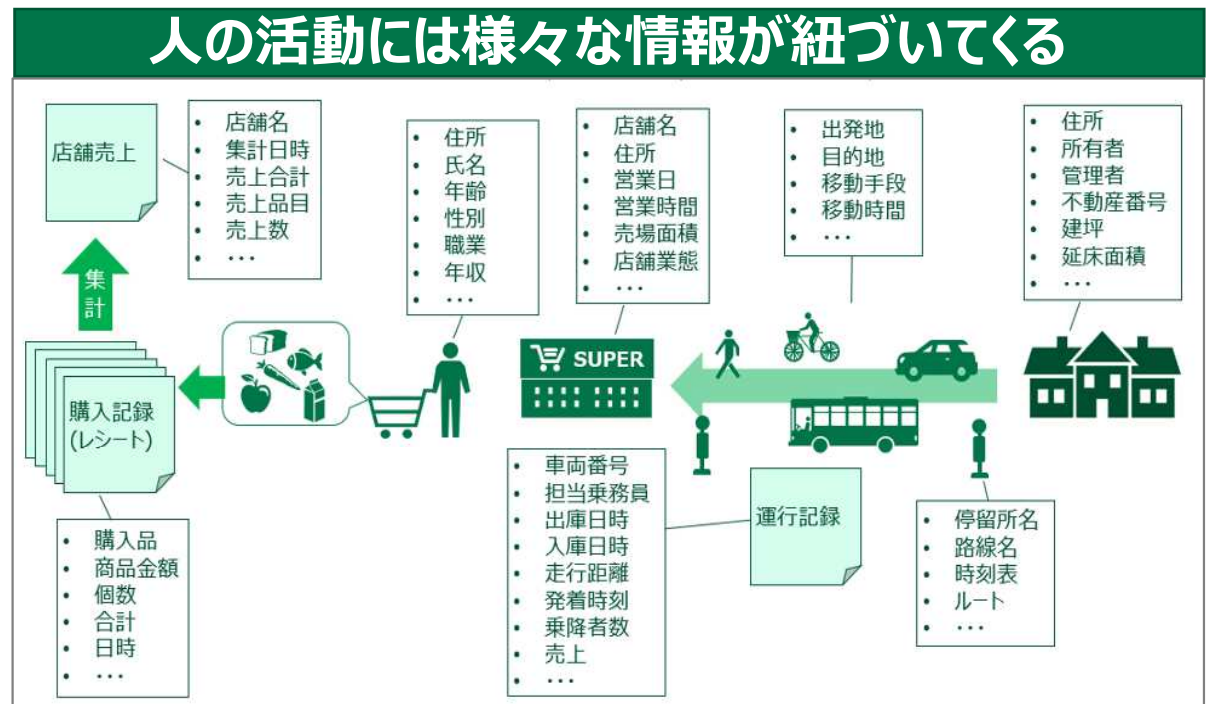
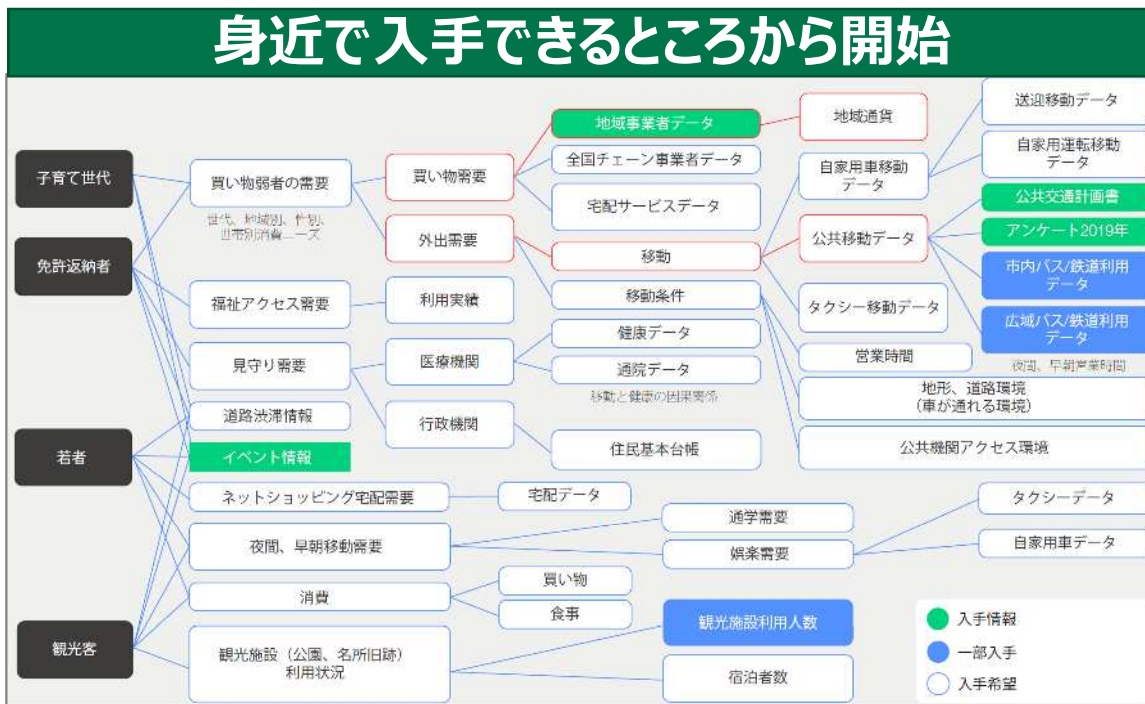
4 「滞在する」街に必要なものー移動を補強する「拠点」

1 データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性

議論のポイント

1 1 データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性

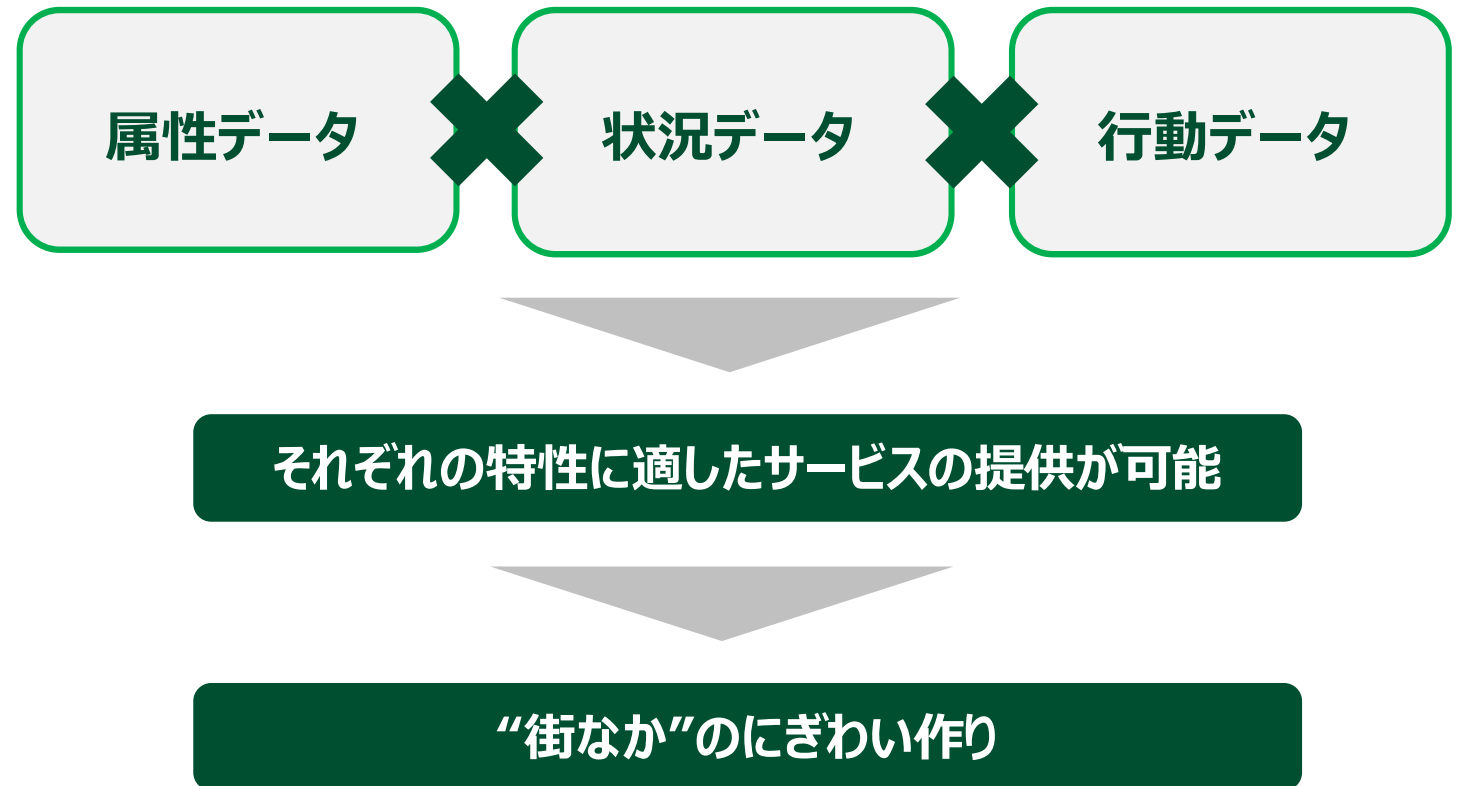
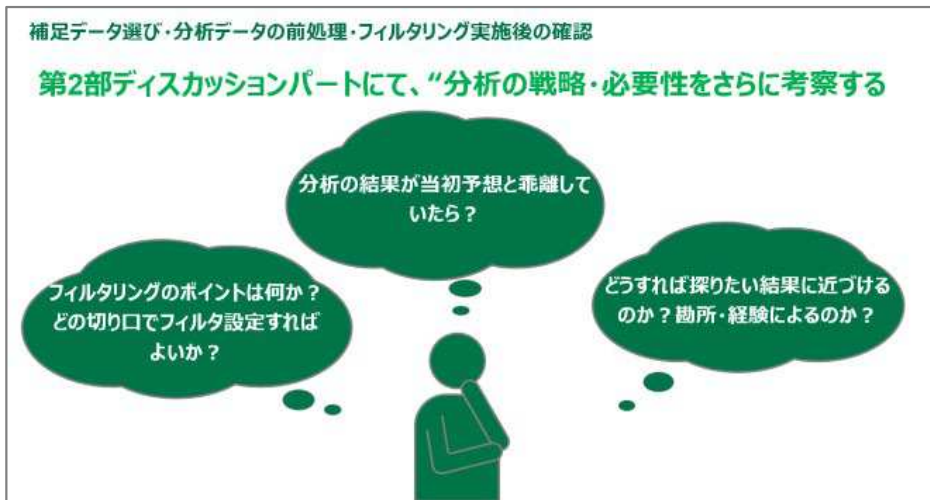
- マクロデータに掛け合わせるマイクロデータ：身近で入手できる“ありもの”でもよい
- ありものデータを使えるものにするためには：
 - ① データの意味とつながりを理解ー目的・問題意識に“合いそう”なものを選ぶ
 - ② 括り方や粒度、体裁を合わせておくー重要
 - ③ 目的・問題意識を投影した切り口・組み合わせ



1 データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性

「補足データ選び・分析データの前処理・フィルタリング実施後の確認」を考察する

データを分析において、より深く考察するためにはフィルター掛けが必須
地域別、駅別、性別、世代別、目的別、移動別・・・等のうち、
どの切り口でのフィルタ設定をするのがポイント



1	データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性
2	データ解析ー自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる
3	五感と「行動変容」ー「気になるもの」を作り出す
4	「滞在する」街に必要なものー移動を補強する「拠点」

議論のポイント

2 データ解析—自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる

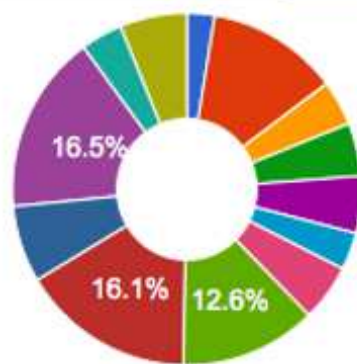
- 「講義パート」での質問より：データの解釈に“不正解”はない—自身の意識・視点が大切
- 「平日と休日」・「ジェンダー・年齢層別」について、もう1段掘り下げて考えてみたい

通過流動の内訳（ユーザー層別）

通過数（日平均、休日）

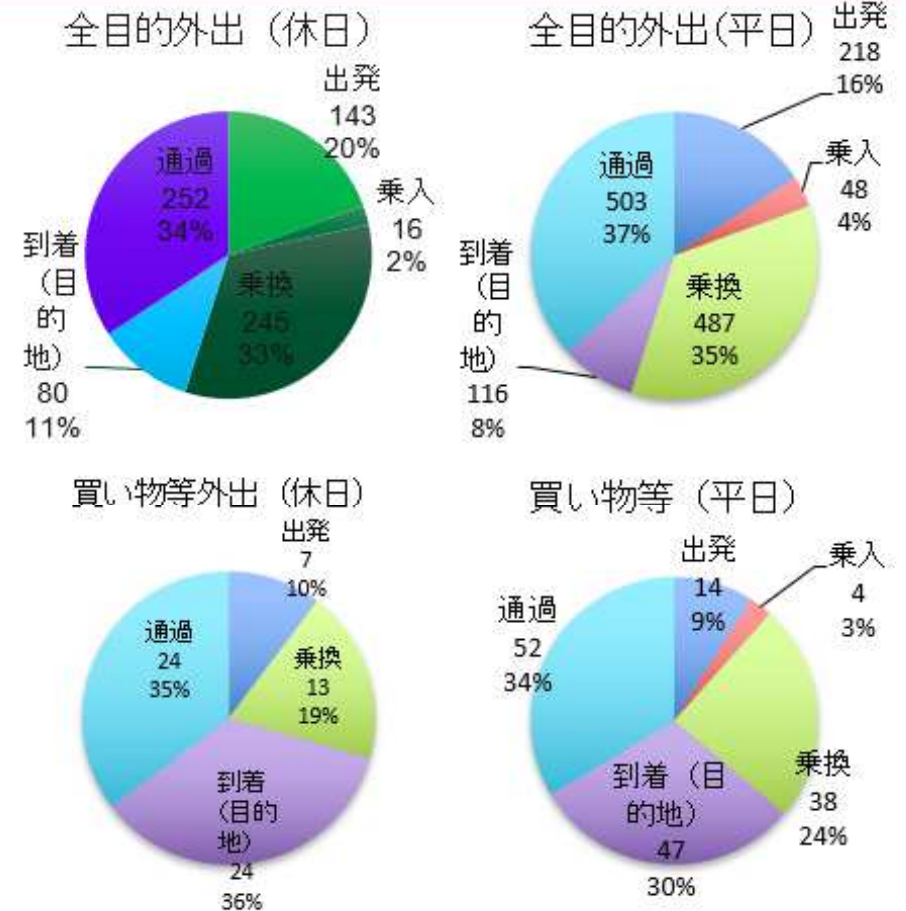


通過数（日平均、平日）



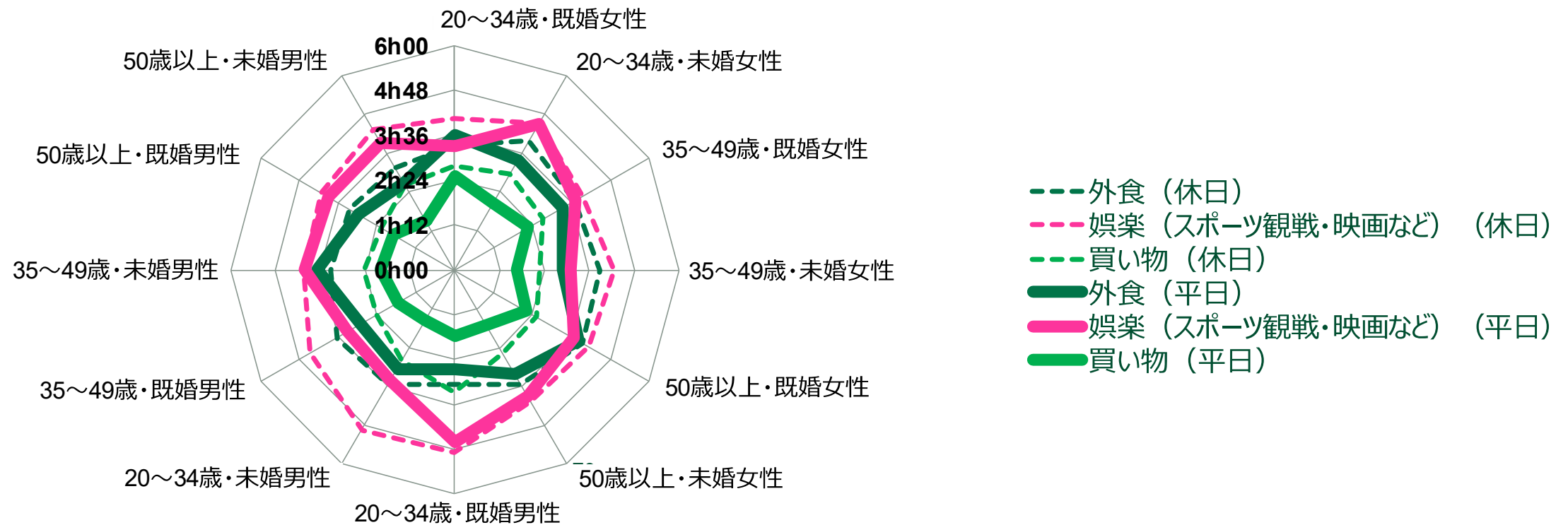
- 20～34歳・既婚女性
- 20～34歳・未婚女性
- 35～49歳・既婚女性
- 35～49歳・未婚女性
- 50歳以上・既婚女性
- 50歳以上・未婚女性
- 20～34歳・既婚男性
- 20～34歳・未婚男性
- 35～49歳・既婚男性
- 35～49歳・未婚男性
- 50歳以上・既婚男性
- 50歳以上・未婚男性
- 13～19歳・未婚

通過流動の内訳（利用目的別）



新宿の通過流動 — 切り口（フィルター）切り替えて、改めてデータを見る —
 平均滞在時間（買い物/外食/娯楽（スポーツ観戦・映画など））

滞在時間は全般的に「娯楽 > 外食 > 買い物」の順で多くなり、
 どの目的も基本的には「休日 > 平日」の順で多くなっている



1	データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性
2	データ解析ー自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる
3	五感と「行動変容」ー「気になるもの」を作り出す
4	「滞在する」街に必要なものー移動を補強する「拠点」

議論のポイント

3



五感と「行動変容」-「気になるもの」を作り出す

- 「短期的には合理性だけでは動かない」がポイント-「目の前の気になるもの」をどう作り出すか
- 「視覚」を例にとると：
 - ① 歩く目線とスピードが「気づき」の重要ポイント
 - ② 違和感や非日常性、変化など
 - ③ “寄り道”を増やす工夫
- 「期待感」と「状況判断」
- リピーターづくり-景観や構造が“担保”

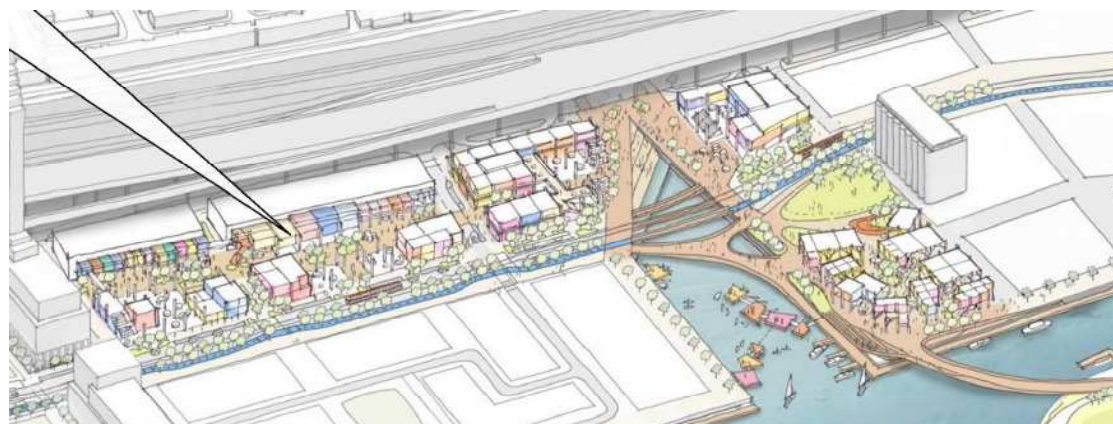
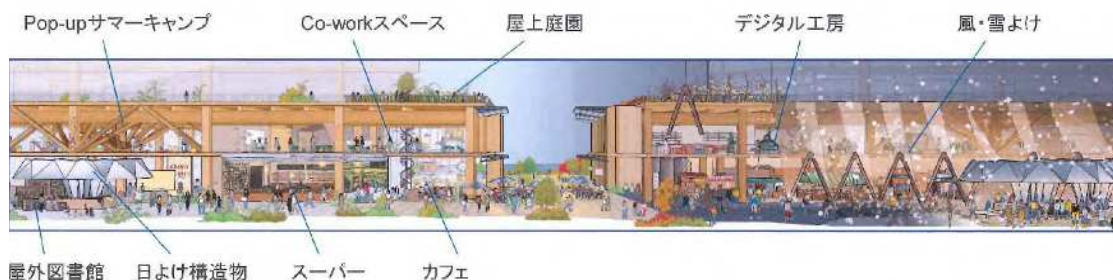


賑わいを生む街づくりの視点

「街」の新たな価値発見・創造のカギは1階にあり
建物の内外の境界を排し、往来を活発化(新たな交流・出会い創出)
多様かつ(一見)無関係な集まりによる新価値創造

地上階を公共空間として開放
Sidewalkの“Stoa”コンセプト

Stoaの運用イメージ図



「グランドレベル」ランドリーカフェ
開放性・多用途の融合



1	データを「意味あるもの」にするー「前処理」の重要性
2	データ解析ー自分に「刺さる」まで掘り下げ、重ね合わせる
3	五感と「行動変容」ー「気になるもの」を作り出す
4	「滞在する」街に必要なものー移動を補強する「拠点」

議論のポイント

4



「滞在する」街に必要なもの—移動を補強する「拠点」

- リピーター⇨何度も通いたい場所がある—「拠点」が重要に
- モビリティにおける「拠点」：
 - ① 交通結節点（乗り継ぎポイント）として
 - ② 交流拠点（滞在できる・時間を有効に使えるポイント）として
 - ③ 両方を併せ持つ多目的拠点として
- “何もしなくてもよい”も重要（例：ベンチ）

海外の事例にみる「モビリティハブ」の潮流

シームレスな交通結節点（乗り継ぎポイント）としての
ベルリン都市交通局 Jelbi Stations（ドイツ）



カーシェア・マイクロモビリティシェアが1か所に



地下鉄駅出口に並べられたマイクロモビリティ



異なる事業者のシェアサービスも一か所に



電動車両（二輪・四輪）の充電ステーションも

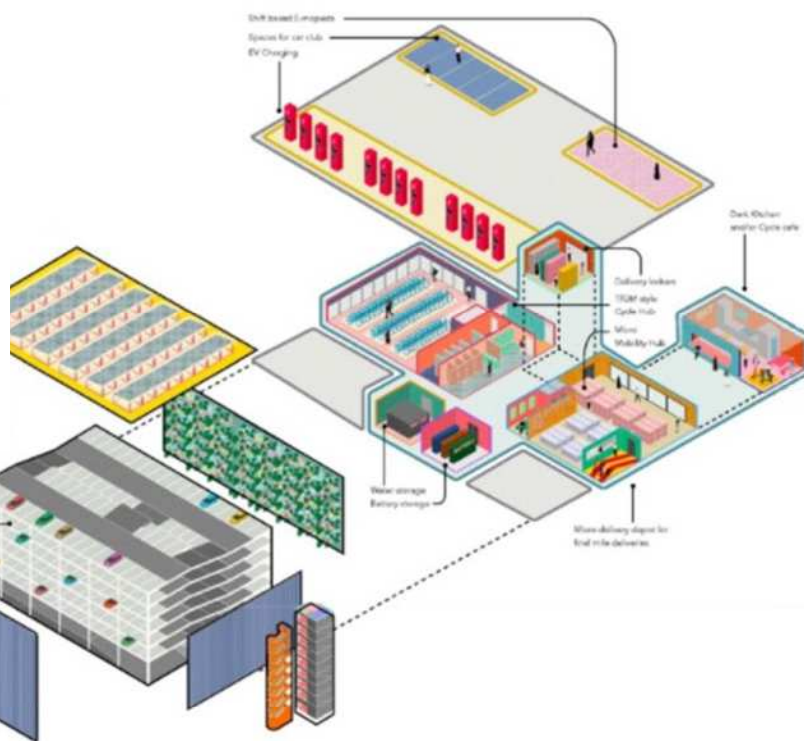
4 「滞在する」街に必要なもの—移動を補強する「拠点」

海外の事例にみる「モビリティハブ」の潮流

17項目のコンセプトをもとに建設された Ancoats Mobility Hub (イギリス)



Ancoatsコンセプト



Ancoats施設周辺の歩行空間と自転車の配置



壁面緑化 (Ancoats Green)



出所：2021-06-02 Manchester Evening News “Plans to build the UK’s first ‘mobility hub’ in Manchester have moved a step closer”より A CGI image of the plans (Image: McrLife)出所：The Ancoats Mobility Hub HP - Detailed Proposals Mobility hub — Ancoats and New Islington (haveyoursay-ancoats.co.uk)

4 「滞在する」街に必要なもの—移動を補強する「拠点」

日本の事例にみる「モビリティハブ」の潮流

住宅地のバス折返場を賃貸住宅や シェアリングモビリティの複合施設に開発（東京都武蔵野市）



「hocco」全体イメージ



賃貸住宅

4 「滞在する」街に必要なもの—移動を補強する「拠点」

日本の事例にみる「モビリティハブ」の潮流

埼京線沿線にマルチモビリティステーション シェア型マルチモビリティによる新たな移動環境（埼玉県さいたま市）



中浦和駅前ステーション



ステーションマップ

出所：「さいたま市（令和4年8月24日記者発表）さいたま市内の埼京線沿線にマルチモビリティステーションを新設」より